

秋田市の自転車利用環境の現状

1 秋田駅東西歩道橋（Weロード）西側昇降口等整備事業

(1) 秋田駅東西歩道橋（Weロード）西側昇降口等整備事業による自転車通行開始（8月2日）

秋田駅東西間の交流促進を図るため、歩行者の利便性の向上と自転車通行を可能とするための施設改修を実施した。

- ・事業期間 平成18年度から平成20年度（平成20年8月2日供用開始）
- ・事業内容

自転車通行を可能にするための西側昇降口の改修

昇降口への自転車搬送コンベヤーの設置（西側・東側）

歩行者及び自転車が安全に通行できるよう、通路内部の改装

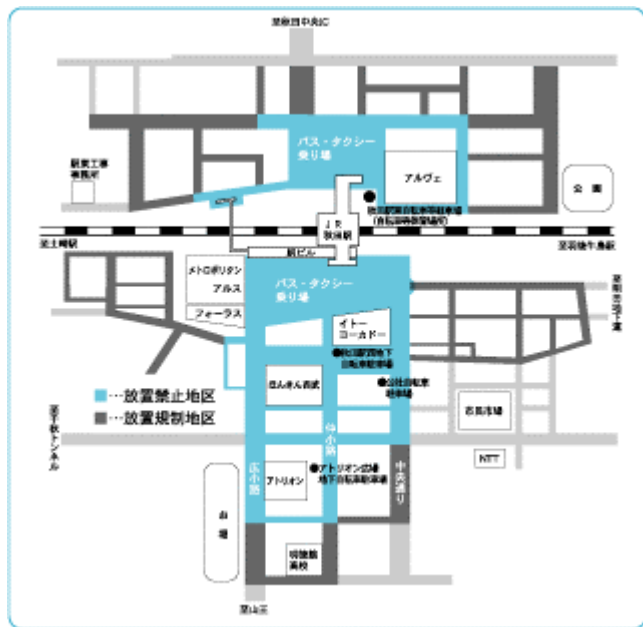
西側昇降口付近へのエレベーター設置（平成19年8月2日供用）



2 秋田駅周辺における自転車利用環境

(1) 自転車等の放置防止

「秋田市自転車等放置防止に関する条例」(平成元年11月18日施行)により、秋田駅前周辺を自転車等放置禁止・規制区域に指定し、指定区域内に放置された自転車および原動機付自転車の撤去・保管を行っている。



(2) 自転車駐輪対策

現在、秋田駅周辺には4箇所の駐輪施設があり、その内、市では自転車等駐車場など3箇所の管理・運営を行っている。

施設名	供用年月	営業時間	施設概要
(市営)秋田駅東自転車等駐車場	平成16年7月	5:00～0:30	自転車2,600台 バイク50台
(市営)秋田駅西地下自転車駐車場	昭和59年3月	6:30～22:30	自転車800台
(市営)アトリオン広場地下自転車駐車場	平成元年11月	7:00～21:00	自転車530台
(公営)秋田市公営駐車場	昭和59年7月	7:00～22:00	自転車250台 バイク60台

3 自転車活用の取り組み

(1) 市役所における自転車通勤等

ア 秋田市環境部における自転車通勤等の奨励に伴うCO₂の削減(環境部環境企画課)

- ・実施期間:平成20年6月2日(月)～平成20年6月30日(日)
- ・対象:市民環境部職員
- ・実績:延べ参加人数475人 ノーカー通勤距離5,571.8km

ガソリン削減量(推計)696.5 CO₂削減量(推計)約1.6t

イ 秋田市役所における公共交通機関や自転車等による通勤(環境部環境企画課)

- ・実施期間:平成20年7月14日(月)～平成20年7月18日(金)
- ・対象:市役所職員

ウ 公用自転車の導入(財政部管財課)

- ・実施日:平成20年7月1日(火)より
- ・対象:市庁舎から半径2km以内の外回りをする職員
- ・使用台数:10台

(2) NPO法人バイシクルエコロジージャパン(BEJ)の活動(秋田市)

NPO法人バイシクルエコロジージャパン(BEJ)が主催する「Bike to work day」の自転車通勤応援イベントでは、自転車通勤者へ飲食物を提供するなど、さまざまなイベントを企画している。秋田市環境部でも、同イベントの趣旨に賛同し、平成20年6月19日(木)7月17日(木)9月22日(月)、10月16日(木)の7:30～8:30に環境部庁舎玄関前にブースを設け、冷たいお茶等の提供を行った。

4 自転車通行環境の整備

(1) 自転車通行環境整備モデル地区の指定

平成 20 年 1 月に国土交通省と警察庁が合同で自転車通行環境整備のモデル地区を指定した。

自転車交通を取り巻く課題

- ・歩道上で自転車と歩行者が接触する事故は、最近 10 年間で約 4.8 倍に増加。
- ・京都議定書目標達成計画で、自転車走行空間の整備により約 30 万トンの排出ガス削減を目指す。

自転車走行空間の現状

- ・自転車走行空間（約 79,000km）のほとんどが歩行者と自転車の混在する自転車歩行者道。

【目的】: 歩行者・自転車・自動車が分離された走行空間を戦略的に展開するためのモデル地区を指定し、今後の自転車通行環境整備の模範となる事業を実施する。

【指定地区】: 平成 20 年 1 月 17 日に全国で 98 地区が指定されており、東北地区（11 地区）では秋田県から秋田駅前周辺（秋田市）と能代駅前周辺（能代市）の 2 地区が指定された。

(2) 秋田駅前周辺地区（自転車通行環境整備モデル地区）

秋田駅前において、自転車通行環境の整備を実施する。



5 自転車に関する市民からの意見

平成 20 年 1 月 21 日から 2 月 14 日（25 日間）の期間に実施した「秋田市中心市街地活性化基本計画（原案）」のパブリックコメントにおける自転車に関する市民の意見

自転車置場無料化（30 代男性）

- ・数十分の買い物に料金を払うこと、地下に止めにくいのが無駄手間、さらに強制撤去もあり駅前が良い印象はない。
- ・今の時代「有料」は、消費者のコスト意識を大幅に高めることにつながる。商店街が賄うなどして原則無料化を検討したらどうか。
- ・もしくは、一車線をつぶすなど無料駐車ゾーンのような区間を設けてもよいのではないかと。

CO₂削減モデル都市秋田（60 代男性）

- ・自転車道整備、無料駐輪場の設置など CO₂削減に結びつく街づくりをすべきでないか。

魅力的なテーマや特性を持った街づくり（50 代男性）

- ・ヨーロッパでは街中に自転車道があったり、電車で自転車を乗せることができる都市がある。秋田市も環境にやさしい都市づくりの観点から自転車で中心部を散策できるよう整備したらどうか。

6 秋田市内のサイクリングロード

大規模自転車道（サイクリングロード）は自然公園、名勝、観光施設、レクリエーション施設を結び、あわせて自転車利用の増大に対処するために、「交通事故の防止と交通の円滑化に寄与し、あわせて国民の心身の健全な発達に資する」ことを目的として昭和 48 年度から整備を行っている。

自転車は、都市内の近距離移動のための手段としてだけではなく、広域的な観光目的でも重要な交通手段となっている。

現在、秋田市内を通る自転車道は「雄和仁別自転車道」、「秋田河辺雄和自転車道」、「秋田男鹿自転車道」の 3 路線がある。



7 秋田市西部地域の散策用自転車の貸出し

(1) 目的

秋田市西部地域の名所、旧跡、街並み等を巡り、郷土の文化・歴史に対する新たな発見および想いを再認識する機会を提供し、もって地域の活性化に寄与することを目的とする。

(2) 制度内容

貸出し対象者は、交通法規を遵守し、自己の行動に責任を負える者(小学生以下を除く)とし、貸出期間及び貸出時間は毎日(土日祝日含む)午前 9 時から午後 6 時半まで。

使用料は無料。保有台数 5 台。

8 企業向けレンタサイクルの社会実験実施

- ・ 募集対象 市内企業
- ・ 募集期間 平成 20 年 10 月 21 日から同月 29 日まで
- ・ 実験期間 平成 20 年 11 月から 3 月まで
- ・ 市提供物 レンタサイクル 計 50 台（放置自転車を修理し利用、TS マーク付き）
- ・ 調査内容 企業活動における自転車の利用状況調査
自転車利用の冬季利用限界時期の確認
自動車から自転車への転換の可能性、
原油価格等高騰における有効性、効果、
レンタサイクル導入における課題抽出
(アンケートおよびヒアリング調査)

